

# 延岡市学校教育研修所

I	研究主題と副題	・・・・・・・・	12 - 1
II	主題設定の理由	・・・・・・・・	12 - 1
III	研究の目標	・・・・・・・・	12 - 1
IV	研究の仮説	・・・・・・・・	12 - 1
V	研究組織	・・・・・・・・	12 - 2
VI	研究の全体構想	・・・・・・・・	12 - 2
VII	研究内容		
1	基本的な考え方	・・・・・・・・	12 - 3
2	国語科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 5
3	社会科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 6
4	算数・数学科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 7
5	理科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 8
6	外国語活動・外国語科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 9
VIII	成果と課題	・・・・・・・・	12 - 10
	○ 引用参考文献		
	○ 研究同人		

## I 研究主題と副題

# 「確かな学力を身に付けた児童生徒の育成」 ～教科等における言語活動の充実を図る授業づくりを通して～

## II 主題設定の理由

### 1 学習指導要領の改訂から

中央教育審議会答申(平成20年1月17日)では、「言語は、知的活動(論理や思考)だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある」とし、「学校が各教科等の指導計画にこれらの言語活動を位置付け、各教科等の授業の構成や進め方自体を改善する必要がある」と提言している。

また、答申の中で、「習得・活用・探究」という考え方が示された。各教科等では、基礎的・基本的な知識・技能を「習得」とするとともに、観察・実験をしてその結果をもとにレポートを作成する、文章や資料を読んだ上で知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといったそれぞれの教科の知識・技能を「活用」する学習活動を行う。これらの学習の基盤となるのは言語に関する能力であり、そのために各教科等で言語活動を充実させることが大切である。

言語活動の充実を進めていくことは、授業改善に深くつながる。児童生徒が自ら課題を設定し、思考したり判断したりしながらそれらを解決していく授業を構成する上では、児童生徒自身の言語活動を活発なものにしていくことが必要である。

### 2 延岡市教育委員会の教育施策から

延岡市教育委員会においては、今年度、『わかあゆ教育プラン』を策定し、延岡市の「未来をひらく人づくり都市宣言」を基本理念とし、義務教育9年間を通じた小中一貫教育と教育コミュニティではぐくむ教育を積極的に推進している。中でも「確かな学力をつける教育の推進」を重点的な取組として、「学力向上」「理数教育の充実」「読書教育の推進」を進め、「レベルアップ延岡」学力向上協議会を中心に、小中連携による学力の分析と具体的な到達目標の設定、実践・検証を進め、学力向上の改善策を探っている。また、教職員の資質向上を推進するために、学校教育研修所の研修活動の充実が進められ、より実践的な研究が期待されている。

### 3 延岡市学校教育研修所の役割と責任から

一昨年度までは、計算力向上と「読む力」の伸長、家庭学習の充実に取り組み、学力向上を支える研究と実践を積み重ねてきた。

昨年度は、それまでの研究を継続して進めるとともに、小学校学習指導要領実施に伴う新たな授業づくりに焦点を当て、言語活動の充実のための手立てと方策、習得と活用の考え方の究明等、市内の先生方への情報提供及び授業提案を軸とした、より実践的な研究を進めてきた。

本年度は、中学校学習指導要領実施に伴い、主に中学校における新たな授業づくりに焦点を当て、昨年度の研究の成果と課題を生かした実践的な研究を進めることにした。国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語活動・外国語科の5つの班を編制し、それぞれの教科等の特性を考慮した研究を進め、授業公開はもちろん、授業改善の考え方、手立てについても提案していく。

このことによって、すべての学校で授業改善が図られ、児童生徒の学力が向上し、本市教育の充実・向上に資することができると思われる。

## III 研究の目標

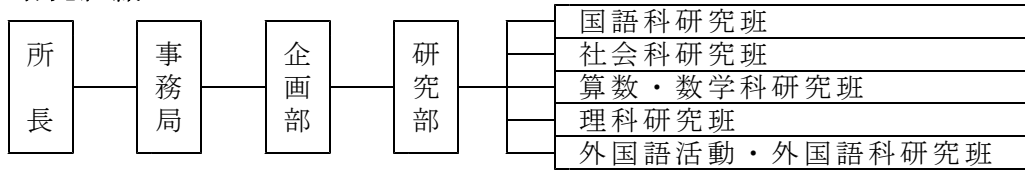
- 1 児童生徒の学力(知識・技能の習得及び知識・技能を活用した高め合い)を向上させるための方策について、各教科等(国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語活動・外国語科)の特性を生かした言語活動の充実の在り方を探る。
- 2 延岡市内小中学校全体の授業の質を向上させるために、「授業モデル」を構築し、授業研究会を通して成果を広める。

## IV 研究の仮説

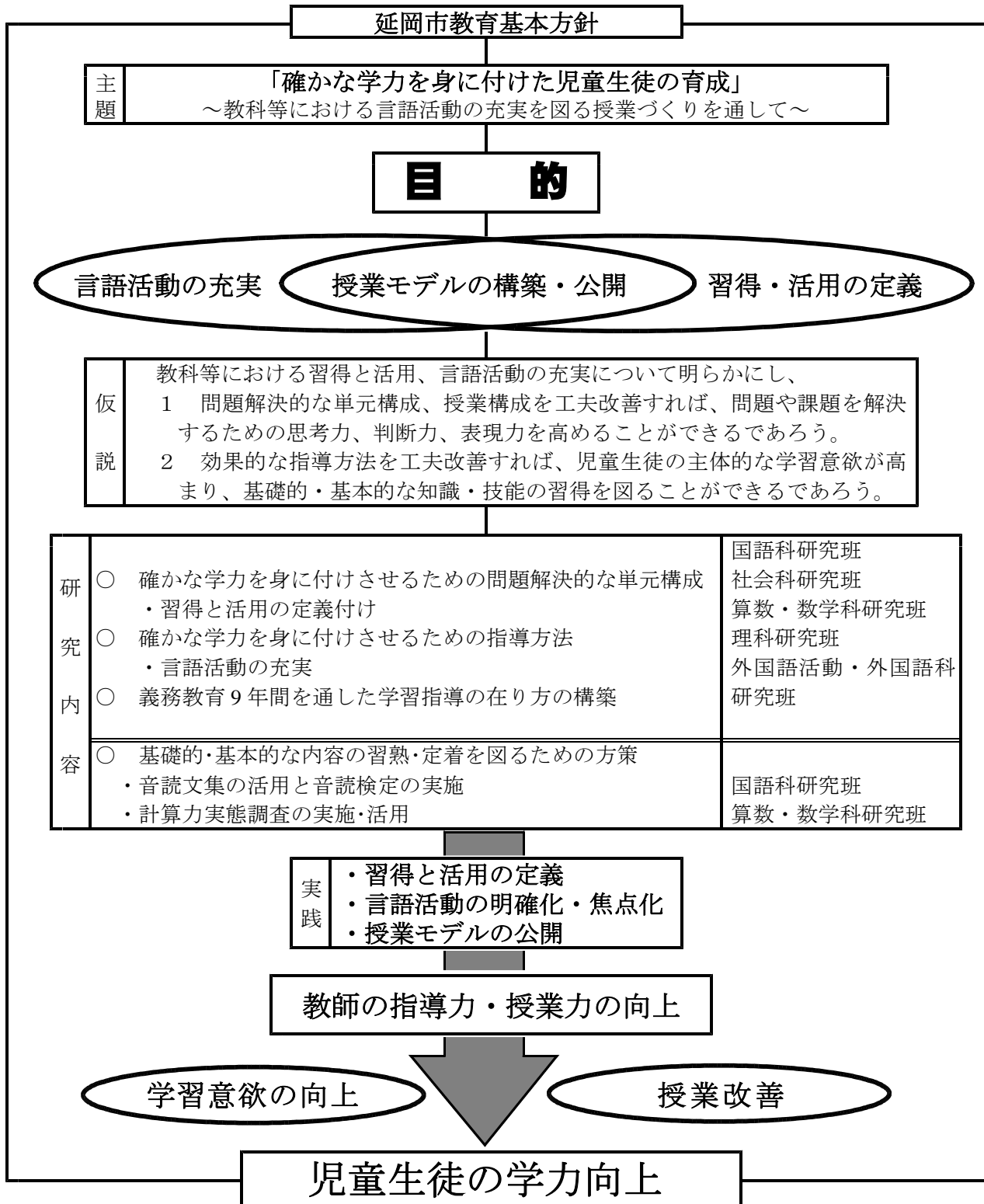
教科等における習得と活用、言語活動の充実について明らかにし、

- 1 問題解決的な単元構成、授業構成を工夫改善すれば、問題や課題を解決するための思考力、判断力、表現力を高めることができるであろう。
- 2 効果的な指導方法を工夫改善すれば、児童生徒の主体的な学習意欲が高まり、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるであろう。

V 研究組織



VI 研究の全体構想



## Ⅶ 研究内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 習得と活用の定義

確かな学力を育成するために、各教科では基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実することが求められた。

そこで、本研修所では、次のように習得、活用について定義付けを行った。

習得	～ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせること。「知識」を詰め込むのではなく、「知識」の意味内容を身に付けさせる。
活用	～ 習得した知識・技能をより現実的な、あるいは複雑な事態において使うこと。「理解」の確認は、自分の「理解」をことばによって、文章で表現させることで可能になる。

#### 【本研究における習得と活用の定義】

#### (2) 学習過程における活用

授業の中で活用として、次のような学習活動が考えられる。

- |               |             |
|---------------|-------------|
| ・知識を利用する。     | ・知識を生かす。    |
| ・知識を当てはめる。    | ・知識を比べて考える。 |
| ・知識をまとめて表現する。 |             |

こう考えてくると、教科の学習過程には大きく2つの活用が考えられる。

1つ目は、習得した知識を確かなものにするための活用である。(以後、活用①)

もう1つは、習得した知識から、深まった課題を発見したり、日常生活への適用を図ったりするための活用である。(以後、活用②)

活用①では、1単位時間あるいは1単元において、学んだ知識を活用する様々な場面において適用できる程度に意味理解を伴ってしっかりと深く理解することが必要である。

活用②では、1つの与えられた問題解決場面において、既習知識の中からどの知識が今取り組んでいる問題に有効であるかを考え、適切な知識を選択し、活用することが必要である。

#### (3) 「活用」と「思考力・判断力・表現力」との関連

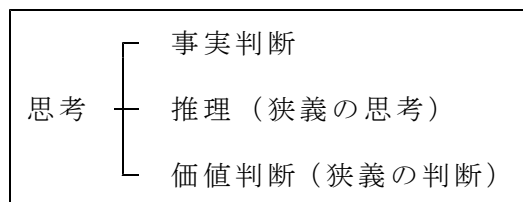
学習指導要領総則では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむ」と述べている。この表現によれば、「思考力・判断力・表現力その他の能力」をはぐくむための学習の場における活動を「活用」ととらえることができる。このことから、あくまで活用であって、「活用力」ではないことが確認できる。そこで、本研修所では、「活用」を、「活用する学習活動」「活用する場」として使用することにする。

ここで、思考力・判断力・表現力の関係を整理しておく。広義の思考力には、事実判断、推理、価値判断が含まれる。

事実判断とは、観察して事象を読み取る、数値・図表・文書などから事象を抽出することなどのことである。思考するためには材料が必要であり、事実判断力はその材料を抽出する能力のことである。これは、主に習得の場面ではたらく思考であり、PISA型読解力のいう「情報の取り出し」にあたる。

推理は、事象同士の関係を結び付けるはたらきである。狭義の思考力は、これにあたる。これは、主に活用①の場面ではたらく思考であり、PISA型読解力という「解釈」にあたる。

価値判断とは、経験や知識の蓄積によって複数の結果が得られたときに、ねらいに即して選択を行うことである。狭義の判断はこれにあたる。これは、主に活用②の場面ではたらく思考であり、PISA型読解力という「熟考・評価」にあたる。



#### 【広義の思考力】

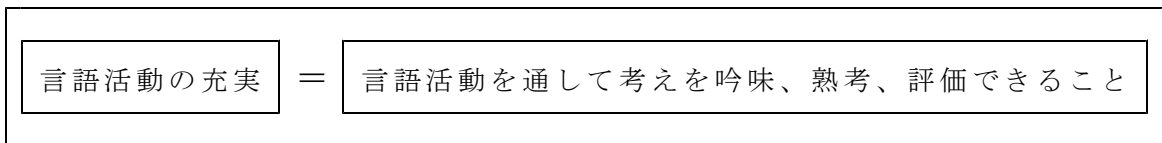
表現力は、事実判断、推理、価値判断のいずれにおいても欠かせないものである。思考の結果は何らかの形で他に伝えることが必要である。その手段が表現力である。その表現力を伴った学習活動が言語活動である。

(4) 「活用」と「言語活動」

前述のように、活用することは広義の思考力を高めることであり、そのためには言語活動は欠かせないものである。言語活動は、児童生徒に必要な能力を身に付けさせるために重要な要素の1つであると考えることができる。このように考えると、学習活動に言語活動を取り入れるだけでは、言語活動の充実が図られたことにはならないということである。大切なことは、言語活動を行うことで、児童生徒の思考力、判断力、表現力等が育成されたかどうかということである。

(5) 言語活動の充実

言語活動の充実には、言語活動を通して児童生徒の考えの深まりが見られることが重要である。つまり、児童生徒が自分の考えを吟味、熟考、評価することが必要となる。



【言語活動の充実】

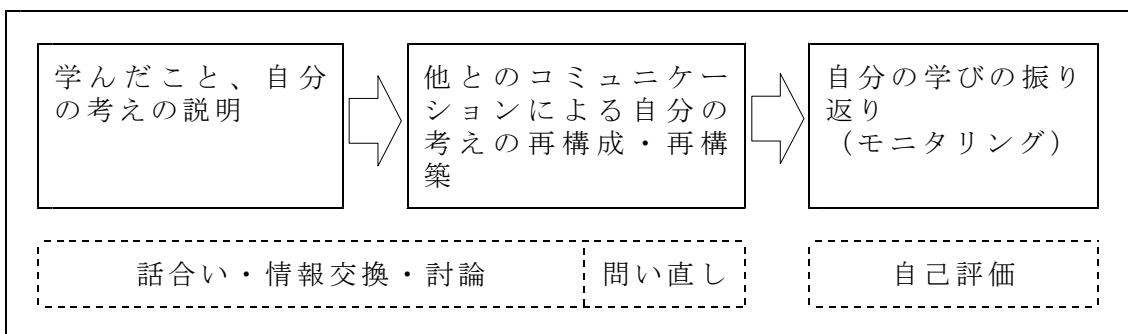
言語活動の充実を図るための主な方法として、以下のような学習活動が挙げられる。◎や○のような活動が言語活動の充実に効果的だと考えられる。

- ・ 考えをまとめる
- ・ 考えを図などに表す
- ・ 自分の考えを説明する
- 他の意見と聞き比べる（違いに気付く）
- 他の意見を取り入れる
- ◎ 考えを再構成・再構築する
- 自分の考えの変容を振り返る（自己評価する）

【言語活動の充実を図るための主な方法】

もちろん、今までも言語活動は授業の中に取り入れられてきた。ペア学習、グループ学習による話し合い、発表の場、自己評価の時間など、表現力を伴う学習活動が授業の中に位置付けられてきた。しかし、そのねらい、目的については十分に検討されていないことも多かった。言語活動を授業の中に取り入れるだけではその充実を図ることはできない。学習（授業）のねらいを達成するためにふさわしい言語活動を選び、その方法と目的を児童生徒に確実に伝えなければならない。

言語活動の充実のプロセスを図式化すると次のとおりである。



【言語活動の充実のプロセス】

これらの学習活動は、自分の学習活動を客観的に見つめ直すことを重視している。これは、学習心理学、認知心理学で言うメタ認知能力を高めることにつながる。

## 2 国語科研究班

### <習得と活用の定義>



- 「習得」～ 日常生活や社会生活に必要な国語の基礎的・基本的な知識や技能を身に付けること。
- 「活用」～ これまでに身に付けた国語の能力を用いて、自分の考えを深めたり表現したりすること。

### <言語活動の明確化>

自分の考えを表現したり深めたりするために必要とされる活動とその適切な選定

#### (1) 言語活動の充実を図る学習指導過程（中学校第2学年「恥ずかしい話」）

吟味の方法を習得するための言語活動として、個人思考（ワークシートに根拠をもとにして自分の意見を書く）→集団思考（グループ・全体で意見交換する）→個人思考（考えの再構成・再構築）という流れで学習を展開した。特に、考えを再構成・再構築する段階を大切にすることが、確かな学力につながると考え、取り組んだ。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>4 筆者の考え方や論証を吟味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人で思考する。</li> <li>・ 班で話し合う。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>【活用】論証を吟味していく。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「説得力のある根拠」を確認し、「恥ずかしいという感情は人間的な感情ではないだろうか」という筆者の考え方について自分の考えを書かせる。</li> <li style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【言語活動】筆者の根拠である「恥ずかしがっているライオンや猿は想像できない」という考え方について、自分の根拠を挙げて、話し合う。</li> <li>○ 適切に班での話し合いが行われているか机間指導する。</li> </ul>	<p>T：「説得力のある根拠」を意識して自分の考えのもととなる根拠を挙げてみましょう。</p> <p>T：急いで結論を出すことよりも根拠について、たくさん意見を出し合いましょう。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">班や全体で意見交換し、根拠について再考する。</p> <p>T：各班の意見を出し合いましょう。</p> <p>S：（意見交換する。）</p>
		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班で出した意見について全体で意見交換する。</li> </ul> <p>5 意見交換をふまえて自分の考えを再構成・再構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の結論を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最初の考えと結論を比較させることで、考えの深まりに気付かせる。</li> <li>○ ワークシートを提出させ、考えが深まっているかを確認する。</li> </ul>	<p>○ 結論の吟味・熟考を行い、自分の意見の再構成・再構築を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>【活用】論証を吟味することができる。</b></p>

#### (2) 成果と課題

- 個人思考（自分の考えをもつ）→集団思考（意見交換する）→個人思考（考えの再構成・再構築）という流れで学習を展開することで、思考を深めることができた。
- 小学校との系統性をふまえながら教材研究をしたことで、言語活動を明確化することができた。
- 吟味する題材が難しかった。生徒の実態や単元の目標などを考慮し、課題設定をしていく必要がある。

3 社会科研究班  
 <習得と活用の定義>






- 「習得」～ 社会的な事象に関する基礎的・基本的な知識・概念や技能を確実に身に付けること。
- 「活用」～ 習得した知識、概念や技能を用いて考えたり、説明したり表現したりすること。

<言語活動の焦点化>

問題解決的な学習の過程において、調べたことや考えたことを、自分の言葉で書いたり、説明したりすること。

(1) 言語活動の充実を図る学習指導過程（中学校第1学年「古代国家の歩みと東アジアの世界」）

言語活動の充実を図るために、個人思考→集団思考→個人思考（再構成・再構築）、という流れで学習活動を展開した。特に、吟味されたキーワードを用いて、自分の考えをまとめる活動（再構成・再構築）を大切にすることが確実な習得につながると考え、授業改善に取り組んだ。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>4 学習課題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題について調べ、自分の考えをもつ。(個人)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことをもとにグループで話し合う。(グループ)</li> <li>・話し合ったことをもとに自分の考えをまとめる。(個人)</li> <li>・自分の考えをもとに再度話し合う。(グループ)</li> </ul> 	<p><b>【活用】</b>                  系図の読み方、撰政など習得したものを活用しながら、資料をもとに学習課題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートに書き方の例を示し、根拠のある答え方ができるように促す。</li> <li>○ 司会進行マニュアルを活用させ、話し合い活動を活性化させる。</li> </ul> <p><b>【言語活動】</b>                  ・グループで資料をもとに自分の考えを説明する。                  ・他者の発表について質問したり、答えたりして話し合った後に自分の考えを見直す。                  ・他者の考えから参考にしたいことを自分のワークシートに赤ペンで書き加える。</p>	<p>T：資料をもとに、学習課題についての自分の考えをつくってみましょう。</p> <p>T：赤ペンで書き加えたことをもとに、自分の考えを再びつくってみましょう。</p> <p>T：自分の考えができあがったら、もう一度、グループで発表し合ひましょう。発表者に質問もしてください。</p> 
<p>5 キーワードをもとに学習課題についての自分の考えをまとめる。</p> 	<p><b>【言語活動】</b>                  キーワードをもとに自分の考えをまとめる。</p> 	<p>T：各グループの内容を見て、学習課題のまとめの文に必要な言葉は何でしょう。</p> <p>S：撰政、関白・・・</p> <p>T：この言葉を使って、まとめの文をつくってみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 結論の吟味・熟考を行い、自分の考えの再構成・再構築を行う。             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">                 確実な習得             </div>

(2) 成果と課題

- グループでの話し合い活動を設けたり、キーワードを押さえて自分の言葉で考えを再構成・再構築させたりしたことで、確実な習得につながることができた。
- ワークシートに番号や矢印を入れたり、課題とまとめを比較したりして学習の流れを示したことで、生徒が見通しをもった活動を進めることができた。
- 充実した言語活動を授業の中で展開していくため、資料提示や学習課題設定の方法について教材研究を進めていきたい。



#### 4 算数・数学科研究班

##### <習得と活用の定義>



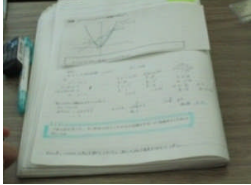
- 「習得」～計算力、用語・記号などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けること。
- 「活用」～習得した知識・技能をもとに考えたり、根拠を明らかにして表現したりすること。

##### <言語活動の焦点化>

問題解決的な学習の過程において、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、根拠を明らかにしながら、自分の考えを分かりやすく説明したり、表現したり、伝え合ったりすること。

#### (1) 言語活動の充実を図る学習指導過程（中学校第3学年「関数 $y = ax^2$ 」）

言語活動の充実を図るため、個人思考（式・グラフ・図等を用いて考える）→集団思考（式やグラフ・図等を説明し合いながら学び合う）→個人思考（考えの再構成・再構築を行う）という流れで学習を展開した。特に再構成・再構築する段階を大切にすることが、確かな学力につながるものであると考えた。指導と評価の一体化を図るため、思考の深まりが見える手立てとして青ペンで他者の考えの書き加えを行うようにした。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>4 学習問題を解決する。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>①点 A,B の座標を求める。</p> $\begin{cases} y = x^2 \\ y = x + 2 \end{cases}$ <p>②グラフ上の△AOBの面積を求める。</p> <p>(2) 小集団ごとに考えを出し合う。</p>  <p>(3) 求め方を画用紙にまとめる。</p> <p>5 考えを発表する。</p>  <p>6 自分の考えを再構成・再構築する。</p> 	<p><b>【活用】</b> 一次関数の式と直線の2つの交点の座標が、連立方程式とみたときの解であることを活用して、2つの交点の座標を求めることができる。</p> <p><b>【活用】</b> 既習事項を活用して、グラフ上の三角形の面積を求める方法を考えることができる。</p> <p><b>【言語活動】</b> 数学的な表現方法（用語や記号、図、式、グラフを用いる）を身に付けられるようにする。</p> <p>○ 図や式を用いて何を利用して考えたかが分かるような発表を促し、筋道を立てた説明をさせる。</p> <p>○ 自分の考えと比較しながら、聞くよう助言する。</p> <p>○ グラフや式、言葉を使って、思考の高まりが分かるように、ペンの色を変えてまとめさせ、自分の考えを再構成・再構築させる。</p>	<p><b>【個人思考】</b> T：個人で考えましょう。 (ヒントカード)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">既習事項の活用</p> <p><b>【集団思考】</b> T：グループで考えたことを出し合ひましょう。 T：自分の言葉で分かりやすく説明しましょう。 T：考えの途中でも構いません。 S：「ここまでは分かった。」 S：(ノートを使って友達に説明する。) S：「なるほど、分かった。」 T：友達の考えを青ペンで書き加えましょう。 T：考えをグラフに書き込んで何を利用したかわかるように説明できるようにしましょう。 S：(代表が黒板でグラフを指しながら、説明する。)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">言語活動の充実</p> <p><b>【個人思考】</b> T：考えをもう一度、ノートに青ペンでまとめてみましょう。 (考えの再構成・再構築)</p>

#### (2) 成果と課題

- 本時で活用する既習事項に絞って復習させたり、ヒントカードを使ったりすることによって、本時の学習に見通しをもつことができ、解決への手立てとなった。
- 個人思考でじっくりと考え、集団思考で意見交換した後に、再度、個人思考を行うことにより、本時の学習内容をより深く理解することができた。
- 単元全体を通して計画的に言語活動を取り入れていく必要がある。
- 生徒の実態や学習内容に応じて、個人思考、集団思考、個人思考（再構成・再構築）の時間配分を考えていく必要がある。



5 理科学研究班

＜習得と活用の定義＞



- 「習得」～科学に関する用語や概念、技能を正確に身に付けること。
- 「活用」～科学的な言葉や概念、技能を用いて考えたり説明したりすること。

＜言語活動の焦点化＞

問題解決的な学習の過程において、自分の考えを科学的な言葉を用いた文字言語・音声言語で説明すること。

(1) 言語活動の充実を図る学習指導過程（中学校第3学年「仕事とエネルギー」）

言語活動の充実を図るために、自分の考えをもつ→他者とのコミュニケーションを図る→考えを再構成・再構築するという流れで学習活動を展開した。特に、考えの再構成・再構築の段階を大切にすることが、確かな学力につながると考え、授業改善に取り組んだ。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>3 実験結果を分析し、解釈する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人による思考</li> <li>・ 班での話し合い</li> </ul> <p>4 各班の発表を聴き、自分の意見を再構成・再構築する。</p> 	 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の導入で行った確認実験を振り返り、個人で思考させる。</li> <li>○ 適切に話し合い活動が行われているか机間指導する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【言語活動】 班での話し合い活動と、他の班の意見を聞くことを通して、結論の吟味・熟考を行う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【活用】 自分の意見の再構成・再構築を行い、力学的エネルギー保存の法則と空気の抵抗・摩擦力を関連付けて説明できるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートを提出させ、個人の理解の深まりを確認、評価をする。</li> </ul>	<p>【演示実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタートが高い位置で、ゴールが低いループコースターの実験</li> </ul> <p>【生徒実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの高さからビー玉をスタートさせればループコースターを回転させることができるかの実験</li> </ul> <p>T：ビー玉をループより高い位置からスタートさせた理由を考えよう。 S：(ワークシートに個人の考えを記入)</p> <p>T：自分の意見をもとにして班での話し合いを行って下さい。 S：(班での話し合いを行い、班の意見をまとめる。)</p> <p>T：各班の意見を発表してもらおう。 S：(代表者が班の意見を発表する)</p> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>結論の吟味・熟考を行う。</p> </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分の意見の再構成・再構築を行う。</p> </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>確かな習得</p> </div>

(2) 成果と課題

- 課題解決にあたっての学習形態の工夫や結論を吟味・熟考・評価する場面を位置付けたことにより、自分の考えを再構成・再構築する言語活動の充実につながった。
- ワークシートを「思考の流れ」「学習内容の定着」の観点で工夫したことで、生徒自身が学習内容を理解できた。また、教師が生徒一人一人を評価する上でも有効であった。
- 言語活動を充実させるための学習指導過程の工夫はできたが、機能的な班活動を展開させるための手立てについても、今後改善していきたい。

6 外国語活動・外国語科研究班

＜外国語科における習得と活用の定義＞


- 「習得」～言語や文化に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付けること。
- 「活用」～習得した知識や技能を用いて、互いの考えや気持ちを伝え合うこと。

＜言語活動の明確化＞

言語材料についての理解や定着を図り、これらを用いて実際に互いの考えや気持ちを伝え合う活動

(1) 言語活動の充実を図る学習指導過程（中学校第2学年「A Work Experience Program」）

新出文構造を用いて自己表現する「インタビュー活動」を設定した。活動の中に必然性のある会話内容やゲーム的要素を取り入れることで、外国語で表現し合う楽しさを感じることができると考えた。さらには、コミュニケーションへの関心・意欲の向上や、新出文構造の確実な定着にもつながると考えた。これらのことが、外国語科における確かな学力をつける上で重要になると考え、授業改善に取り組んだ。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>5 to不定詞を用いたインタビュー活動をする。</p> 	<p>○ 自分のしたいこと、相手のしたいことを伝え合い、自己表現へと近付け、新出文構造の定着を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【活用】 I want to ~を用いたインタビューを通して、新出文構造の定着を図る。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【言語活動】 I want to ~を用いて自分のしたいこと、相手のしたいことを伝え合い、自己表現へとつなげる。</p> </div>	<p>S1: I want to ~. How about you? S2: I want to ~. / Me, too.</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>意欲的に自己表現しながら、言語活動を通して新出文構造をより深く理解する。</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>確かな習得</p> </div>

(2) 成果と課題

- 小学校外国語活動と中学校外国語科のつながりを整理したことで、小学校で音声を通して慣れ親しんだ表現を、文字を通して「文法（ルール）」という観点から学習させることができた。
- インタビュー活動を通じて、生徒は学習したことに自分の気持ちをのせて表現することができ、新出文構造についてより深く理解することができた。
- 年間指導計画の限られた時間配分の中で、4領域をバランスよく身に付けさせるよう言語活動を精選し、充実を図るための手立てを工夫していく必要がある。

### (3) 外国語活動の基本的な考え方

外国語活動は、スキルの習得を第一の目的としない。しかし、外国語を通じてコミュニケーション活動を行うためには、語彙や表現にある程度慣れ親しむことが必要である。そこで、その特性より「習得」「活用」を「慣れ親しむ」、「伝え合う」とし、定義付けする。

#### <外国語活動における習得と活用の定義>

- 「慣れ親しむ」～ 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんだり、言葉の面白さや文化の相違に気付いたりすること。
- 「伝え合う」～ 慣れ親しんだ表現等を用いて、自分の思いを伝えたり、相手の思いを理解しようとしたりすること。

#### <言語活動の明確化>

外国語活動に慣れ親しんだり、言葉の面白さや豊かさに気付いたり積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりする態度を育てるための体験的な活動

## VIII 成果と課題

### 1 成果

- 習得と活用それぞれの場面を整理したことにより、指導のねらいが明確になり、児童生徒自身がめあてを意識して主体的に学習に取り組むことができるようになった。
- 各教科の特性や学習内容に応じた言語活動を設定し、集団思考の後に児童生徒が結論の吟味・熟考・評価する活動を取り入れたことにより、自分の考えを再構成・再構築でき、理解の定着も図ることができた。
- 中学校の授業モデル公開を通して、小中の教師が合同で研究協議を進めることによって、小中の指導のつながりや連携の大切さを実感できた。

### 2 課題

- 主に、学習指導過程やワークシートの工夫を通して言語活動の充実を図ってきたが、その他の手立てについても今後追究していきたい。
- 授業モデルの公開について、昨年度は小学校、本年度は中学校で実施してきた。今後さらに、9年間を見通した小中学校教員の意識の向上や連携の推進を助ける実践を展開していきたい。

### ○ 参考文献

文部科学省：『学習指導要領』（小学校・中学校・総則編・解説） 2008  
文部科学省：『初等教育資料』 東洋館出版社 2011  
文部科学省：『言語活動の充実に関する指導事例集』 2011  
宮崎県教育委員会：平成23年度カリキュラム創造ワークショップ資料  
兵庫教育大学（株）ベネッセコーポレーション共同研究プロジェクト室  
：『活用型学習の指導方法及び評価方法の研究』 2010  
水戸部修治（株）教育開発研究所：『言語活動モデル事例集』 2011  
延岡市教育委員会：『わかあゆ教育プラン』 2012

### ○ 研究同人

延岡市学校教育研修所 所長	橋本 慎朗		
延岡市学校教育研修所 事務局長	平田 博司		
指導主事	甲斐 寿尚		
常任研究員 統括主任	篠原 光教（北浦小学校）		
平田 政行（延岡小学校）	首藤 敏夫（岡富小学校）	北林 智美（旭小学校）	
川崎 直人（恒富小学校）	東坂 将秀（南小学校）	津曲 康夫（緑ヶ丘小学校）	
玉城 聡子（東小学校）	乙倉 千恵美（東海小学校）	黒木 英子（南方小学校）	
松葉 与志子（熊野江小学校）	甲斐 由起子（一ヶ岡小学校）	松浦 俊二（伊形小学校）	
濱砂 俊洋（延岡中学校）	黒木 恭子（岡富中学校）	猪目 俊和（東海中学校）	
菊池 みどり（土々呂中学校）	三樹 陽子（南方中学校）		